

(2) 東北



東北地域では、景気は持ち直している。

- ・ 鉱工業生産は増加している。
- ・ 個人消費はおおむね横ばいとなっている。
- ・ 雇用情勢は依然として厳しい状況だが、持ち直しの動きが続いている。

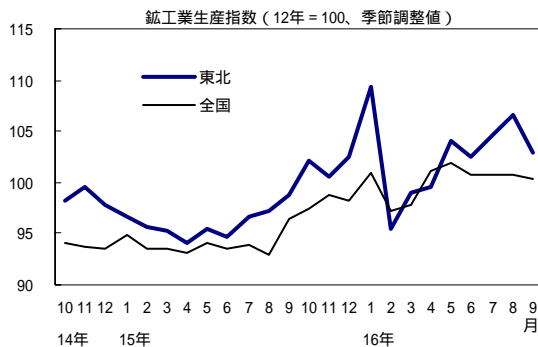
前回調査からの主要変更点

	前回（平成 16 年 8 月）	今回（平成 16 年 11 月）	
住宅建設	減少	おおむね横ばい	

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産は増加している。

電子部品・デバイスは、海外向け液晶素子等が上昇したことから、増加している。食料品・たばこは、冷凍水産食品等の水産製品や果実缶詰等の果実製品が低下したことから、減少している。情報通信機械は、携帯電話・PHS等の通信機械やデジタルカメラ等の民生用電子機械が上昇したことから、増加している。一般機械は、自動車産業向けの産業用ロボットや金型が上昇したことから、大きく増加している。電気機械は、産業用電気機械や電気計測器が上昇したことから、増加している。



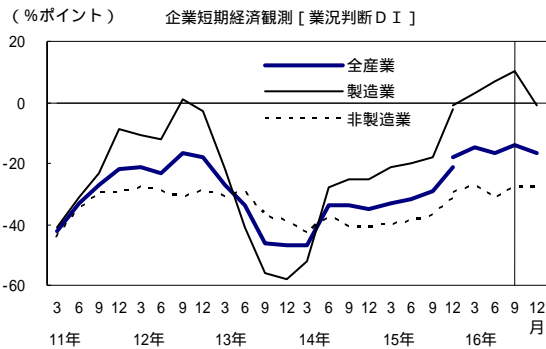
域内主要業種の動向(季節調整値、前期比増減率) (%)

	付加価値 ウェイト	生産		出荷	在庫
		4～6 月期	7～9 月期	7～9 月期	7～9 月期
電子部品・デバイス	19.3	0.5	1.9	0.9	2.6
食料品・たばこ	12.9	11.9	3.4	0.7	12.9
情報通信機械	11.6	4.4	9.2	15.0	22.5
一般機械	8.6	8.7	18.9	16.3	17.8
電気機械	5.8	6.2	5.7	3.2	21.2
鉱工業	100.0	0.8	2.5	2.2	4.0

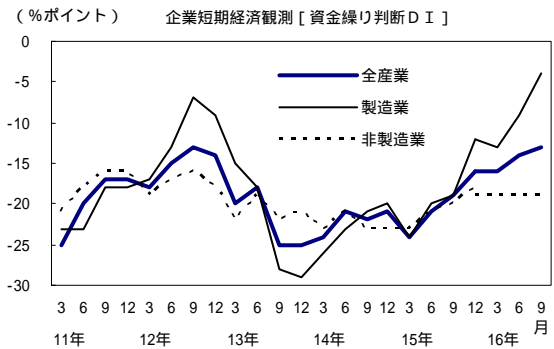
- (備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。
2. 7～9月期は速報値。

(備考) 平成 16 年 9 月の東北は速報値。

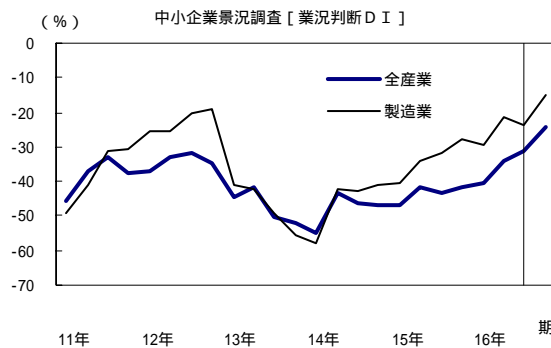
(2) 企業動向の業況判断は「悪い」超幅が縮小し、資金繰り判断は「苦しい」超幅が横ばいとなっている。
企業短期経済観測調査 [業況判断D I、資金繰り判断D I] 及び中小企業景況調査 [業況判断D I]



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。16年12月は予測。
なお、15年12月分については新・旧基準の値を併記。



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。
なお、15年12月分については新・旧基準の値を併記。



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。16年 期は見通し。

景気ウォッチャー調査 (10月調査) [企業動向関連 (現状判断)]

「電子部品製造で、5部門のうち4部門の売上が予算対比で20%前後伸びているが、売上の3分の1強を占める主力部門の受注が予算の50%程度と更に落ち込み、先行き不透明である(公認会計士)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

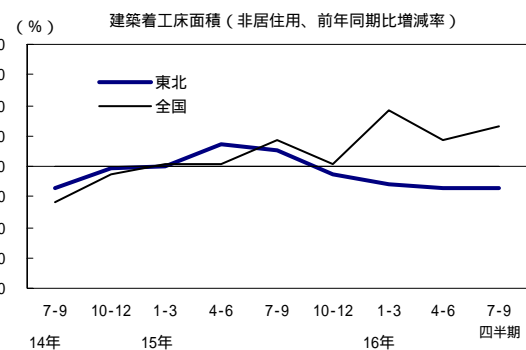
(3) 16年度の設備投資は前年度を大幅に上回る計画となっている。

企業短期経済観測調査 [設備投資 (9月調査)]

(前年度比増減率、単位：%)

	15年度実績	16年度計画
全産業	20.8	32.0(0.9)
製造業	20.3	77.4(1.7)
非製造業	21.2	6.5(0.2)

(備考)()は前回(6月)調査比修正率。



(2) 東北

2. 需要の動向

(1) 個人消費はおおむね横ばいとなっている。

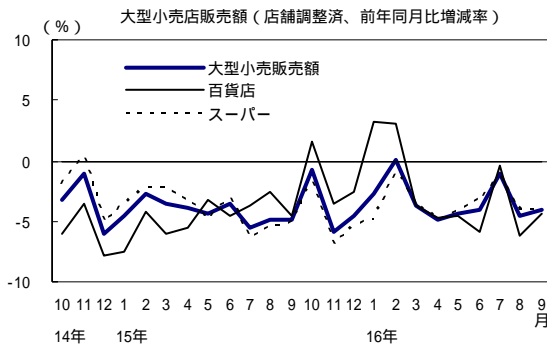
大型小売店販売額及びコンビニエンスストア販売額

百貨店は、7月は猛暑やバーゲンにより夏物衣料品に動きがみられた。8、9月も猛暑の影響で夏物衣料品が好調だったものの、秋物衣料品の販売が不調だった。身の回り品は、7～9月のこの四半期を通して前年を上回り続けている。なお、日本百貨店協会によると、東北地区の10月の売上高は、前年同月比で5.6%減となっている。

スーパーは、7月に猛暑で夏物衣料品、アイス・飲料水などが好調で、全店舗値では一時的に前年を上回る動きもみられたが、総じて前年を下回っている。

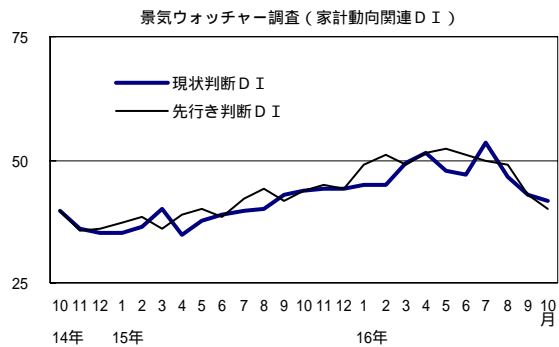
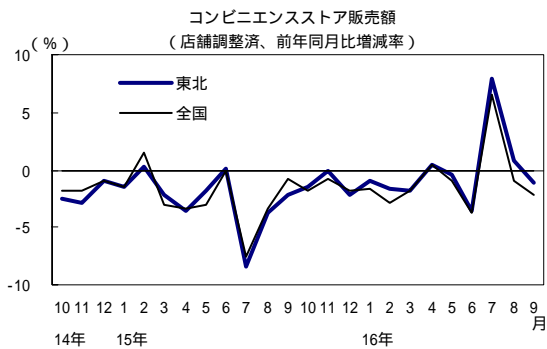
景気ウォッチャー調査(10月調査)[家計動向関連D I (現状判断)]

「気候要因もあると思うが、それを差し引いても春先ほどの勢いが無い(商店街)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。



	15年10-12月	16年1-3月	4-6月	7-9月
大型小売店	3.8	2.3	4.4	3.2
百貨店	1.7	0.5	5.0	3.5
スーパー	4.7	3.3	4.1	3.1
コンビニ	1.2	1.5	1.2	2.5
景気ウォッチャー	43.9	46.4	48.8	47.6

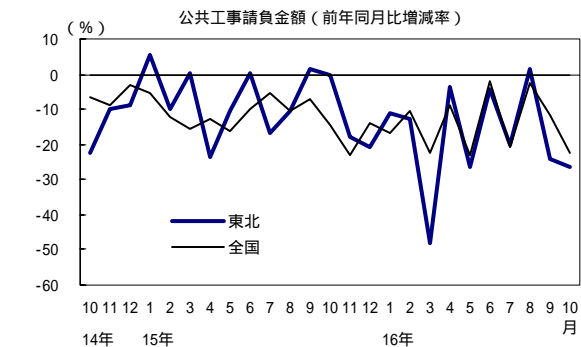
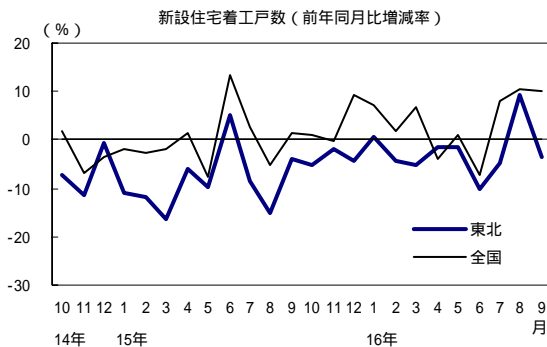
(備考) 1. 大型小売店及びコンビニ販売額は店舗調整済。
2. 景気ウォッチャー調査の数値は家計動向関連の現状判断D Iの3か月単純平均



(2) 住宅建設はおおむね横ばいとなっている。

持家は前年を上回ったものの、貸家、分譲が前年を下回ったことから、全体ではおおむね横ばいとなっている。

(3) 公共投資は16年度累計で見ると前年度を下回っている。

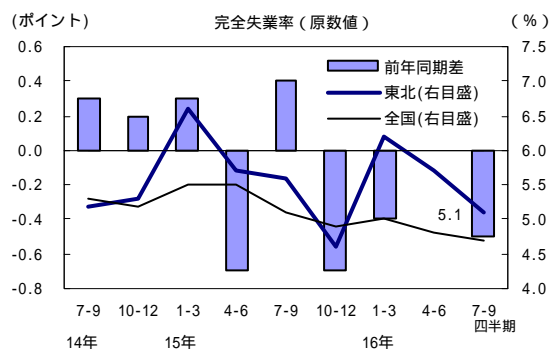
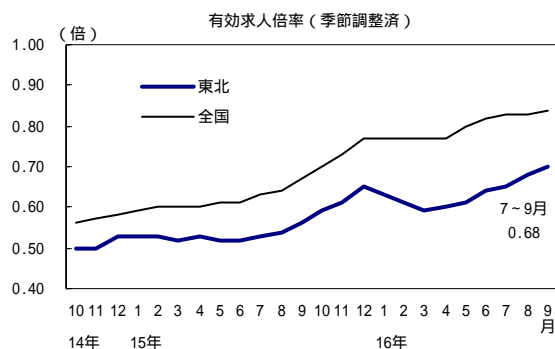


3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は依然として厳しい状況だが、持ち直しの動きが続いている。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率は上昇している。完全失業率は前年同期を下回っている。



景気ウォッチャー調査 (10月調査) [雇用関連 (現状判断)]

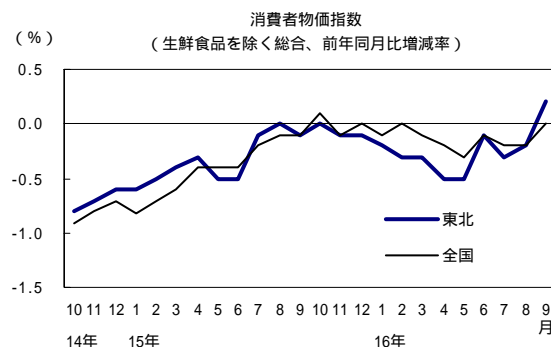
「業種を問わず、人材採用意欲が高い企業が増えている。派遣依頼については上期に比べ10～20%の伸びで増えている (人材派遣会社)」など、「やや良くなっている」とする回答が多くみられた。

(2) 企業倒産は、件数、負債総額ともに減少している。

(3) 消費者物価指数はおおむね横ばいとなっている。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	15年10-12月	16年1-3月	4-6月	7-9月	16年10月
倒産件数 (前年比)	230 39.0	244 25.8	244 20.5	222 23.7	79 16.8
負債総額 (前年比)	749 64.3	801 48.1	1,070 29.2	444 67.8	756 74.2



景気ウォッチャー調査 (10月調査) [合計D I (特徴的な判断理由)]

<現状>

- ・当館にとって設備投資効果が出始めた矢先の地震による新潟マーケットからのキャンセルは影響が少なく、心理的影響の拡大が懸念される。しかし、逆に北陸や新潟方面の旅行を取りやめた客からの申込みもいくつかある (観光型旅館)。

<先行き>

- ・仙台へのプロ野球球団の進出に伴い協賛企業等の動きが出てくるため、今年度中はほんの少しであるが景気が良くなる (広告代理店)。

